

高齢者の自立した日常生活を目指します

地域生活応援会議〈桑名市〉



桑名市が取り組んでいる、高齢者の自立を支援する「地域生活応援会議」を、メディアサポジャパンが取材してきました。



地域生活応援会議とは

地域包括ケアシステム構築の取り組みの一つで、具体的には、新規に「要支援」と認定され、サービスを利用しようとする方などについて、自立した日常生活を送ることを目標にして、介護予防(=生活機能の向上)に役立てる支援を多職種(医療・介護専門職)協働で行います。出席者には各地域包括支援センター、担当ケアマネジャー、アドバイザーなど(薬剤師、作業療法士、管理栄養士など)が含まれます。

桑名市では平成26年10月から取り組みを始め、延べ800ケース以上について検討しています。

会議の流れ

まず、担当ケアマネジャーが立てたケアプランと併せて、利用者の「健康状態」・「生活状況」・「興味関心」などを発表します。それについてアドバイザーである各専門職から、具体的な課題解決に向けたアドバイスを受け、より効果的な支援につなげていきます。

会議に参加された専門職の方々に話を聞きました



- リハビリ専門サービス エバーファイン/作業療法士 池田さん
- 桑名市西部地域包括支援センター/社会福祉士・介護支援専門員 水谷さん
- 有限会社ヒューマン・ケア・ステーションみえ/主任介護支援専門員 高橋さん
- さんあい薬局株式会社/薬剤師 村上さん

- ◆共通のアセスメントシートを使用することで、利用者さんへの聞き取りがスムーズになり、結果として利用者さんのことを、より理解できるようになった。
- ◆聞き取り作業などにより情報交換する機会が増えたことで、ケアマネジャーと介護職員との連携がさらに密になり、お互いに共通認識を持ちやすくなった。
- ◆慣れない間は、提出書類も多く面倒に感じたこともあったが、支援する自分たちも専門家の様々なアドバイスを聞く中で勉強できたので、今では取組んでよかったと感じている。地域として、支援していく基盤が整ってきているように思う。
- ◆医療・介護の異なる分野の専門家が、同じ場で意見を出し合うことが出来る機会。「その利用者さんの生活がどう変わるのか」がテーマ。お互いの関係性も深まるので、都度「良い気付き」があり、参加者が色んな視点を持つことが出来るようになってきていると感じる。若い年代のケアマネジャーや介護職員さんにも参加してもらいたい。

生活項目	興味・関心	備考	担当者
食生活	<input type="checkbox"/>		
服薬	<input type="checkbox"/>		
移動	<input type="checkbox"/>		
睡眠	<input type="checkbox"/>		
排泄	<input type="checkbox"/>		
認知機能	<input type="checkbox"/>		
感情	<input type="checkbox"/>		
生活リズム	<input type="checkbox"/>		
社会参加	<input type="checkbox"/>		
趣味・娯楽	<input type="checkbox"/>		
経済状況	<input type="checkbox"/>		
家族関係	<input type="checkbox"/>		
介護サービス	<input type="checkbox"/>		
地域活動	<input type="checkbox"/>		
健康状態	<input type="checkbox"/>		
生活環境	<input type="checkbox"/>		
その他	<input type="checkbox"/>		

会議を傍聴させていただいて

傍聴させていただいた事例でも、薬剤師さんからは服薬と食事時間についてのアドバイス、管理栄養士さんからは食事内容(例えば、パンの種類)についての指導、作業療法士さんからは対象者の関心に応じたリハビリ内容の提案など、非常に細やかで、現場での実践に向けたアドバイスが出されていました。そのため、医療・介護専門職でない私が聞いていても、非常に分かりやすく感じました。今後この会議がさらに広がっていくことに期待したいと思います。